



大学に何を求めるのか ～現状と使い方～

林 篤裕



(実践女子大学 人間社会学部)
e-mail: hayashi-atsuhiko@jissen.ac.jp



資料掲載URL: statds.shop/haifu/#Shimo2509B

1

0. 前置き

- ◆ 私個人の意見である(私見)
 - ◆ 所属(実践女子大学)を代表しての見解ではない
 - ◆ 大学のいち教員・いち研究者の意見でしかない
 - ◆ 私の拙い偏狭な経験を通して考えたこと
 - ◆ 断定的に申し上げるつもりはない
- ◆ 個々のお考えや高校の方針と異なるかもしれない
- ◆ 考えるきっかけとしての話題提供

2

1. 自己紹介(高大接続関係)

- ◆ ここまでの道のり
 - ◆ 1981年から統計学(今で言うデータサイエンス): 44年間
 - ◆ 1996年から大学入試関係を本格化: 29年間
 - ◆ 2002年頃から高等教育論: 23年間
 - ◆ 2009年からアドミッションセンター教員: 16年間
 - ◆ 2010年から某SSH運営指導委員: 15年間
 - ◆ 2011年に某高等学校の外部評価委員: 1年間
 - ◆ 2018年から共通試験の作題委員: 3年間
- ◆ 高等学校生徒・教員対象講演も程々に

3

1. 自己紹介(専門)

- ◆ (天文学)
- ◆ (工学(機械系))
- ◆ 統計学: 今で言う データサイエンス
 - ◆ データに内在する構造を見つける、探索する
 - ◆ 諸科学の支援: 医学、工学、農学、心理学、経済学、...
- ◆ 教育学:
 - ◆ コンサルテーションシステム、学習診断
- ◆ 高等教育論:
 - ◆ 共通試験のあり方、入試・高大接続のあり方、
“良い”選抜とは? どうやって評価する?
- ◆ 論理的記述力(国語学)

==== 今日の話

4

1. 自己紹介(世代)

- ◆ 共通第1次学力試験 1期生(1979) & 2期生(1980)
 - ◆ 本来は2期生だったはずなのだが(1978年開始予定)
 - ◆ 共通試験: 47回実施(共通第1次, センター試験, 共通テスト)
 - 現在の現役教職員の多く: 共通試験を経験・見聞き
 - 便利なこと: 共通試験経験者かどうかで年齢の上下が判る
- ◆ 「共通1次世代」 <=== 無意味なレッテル貼り
 - ◆ ゆとり世代
 - ◆ 新人類
 - ◆ 就職氷河期世代
 - ◆ Z世代
 - ◆

5

実践女子大学

- ◆ 文学部: 国文学科、英文学科、美学美術史学科
 - ◆ 人間社会学部: 人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科
 - ◆ 国際学部: 国際学科
 - ◆ 食科学部: 食科学科、管理栄養学科
 - ◆ 環境デザイン学部: 環境デザイン学科
 - ◆ 生活科学部: 生活文化学科、現代生活学科
- 学祖 下田 歌子 (源氏物語、学園 1899年、設立126年)
- ◆ 建学の精神: 「女性が社会を変える、世界を変える」
 - ◆ 在学生 4259名、入学定員 1101名、教員 195名
 - ◆ 卒業生 17.6万人



6

2. 本日の目的

- ◆ 大学に何を求めておられますか?
 - ◆ 深い研究テーマ? ◆ 友達? ◆ 就職?
 - ◆ 特定の知識? 技能? ◆ 資格? ◆
- ◆ どのように捉えておられますか?
 - ◆ 高大接続の動向・現状
 - ◆ 大学という学校の特徴、面白さ
 - ◆ 大学で何ができるのか? 利用方法
- ◆ 教育を考えたときの「参考情報の提供」になれば
 - ◆ 現状をご紹介できれば
 - ◆ 各自で and/or ご家庭でお考えいただく際に

7

ご紹介する話題

- A. 高大接続を取り巻く状況
- B. 選択することの苦悩
- C. 大学という学校とその使い方
- D. 高等学校の課題、大学の課題
- E. 次代を担う若者に思うこと

8

A. 高大接続を取り巻く状況

A1. 近年の動向: 多面的・総合的入試

グローバル化社会に向けて

状況1
世界の潮流

- ◆ グローバル化社会
 - ◆ 人、モノ、カネ、制度(教育を含む)が一体となって世界を巡る流動・競争社会
 - ◆ 世界的な教育の質保証:
 - ボローニャ・プロセス(ヨーロッパ)
 - インターナショナル・バカロレア(IB)
 - アクレディテーション(Accreditation, 適格認定)
- ◆ 知識社会から論理思考社会へ
 - ◆ 外から知識を獲得できていた時代から新しいことを生み出す必要のある時代へ
 - ◆ 単なる「知識再生だけ」では対応できない社会
- ◆ このような時代を生き抜く人材の育成

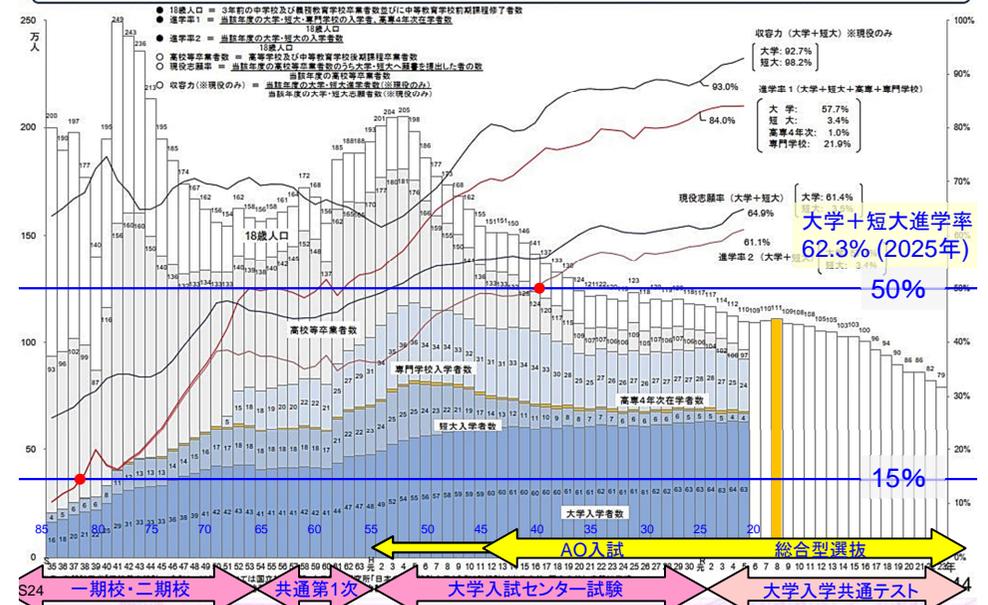
超ユニバーサルな高校教育・ユニバーサルな高等教育の質保証

状況2
日本の状況

- ◆ 米国の社会学者マーチン・トロウ(Martin Trow)の定義:
 - ◆ 15%まで: エリート段階
 - ◆ 15%-50%: マス段階
 - ◆ 50%以上: ユニバーサル段階
 - だれもが進学する「機会」が保証されている状態
- ◆ 高校への進学率=99%: 事実上の義務教育化
 - ◆ 普通科、専門学科(職業科)、総合学科
 - ◆ 「多様化」の名の下にあらゆる層が入学してくる時代
==> 卒業させる必要性、高校教育に歪み、質保証
- ◆ 大学+短大への進学率=62.3% (2025年)
- ◆ もう一様なルールでの議論・運用は困難では?

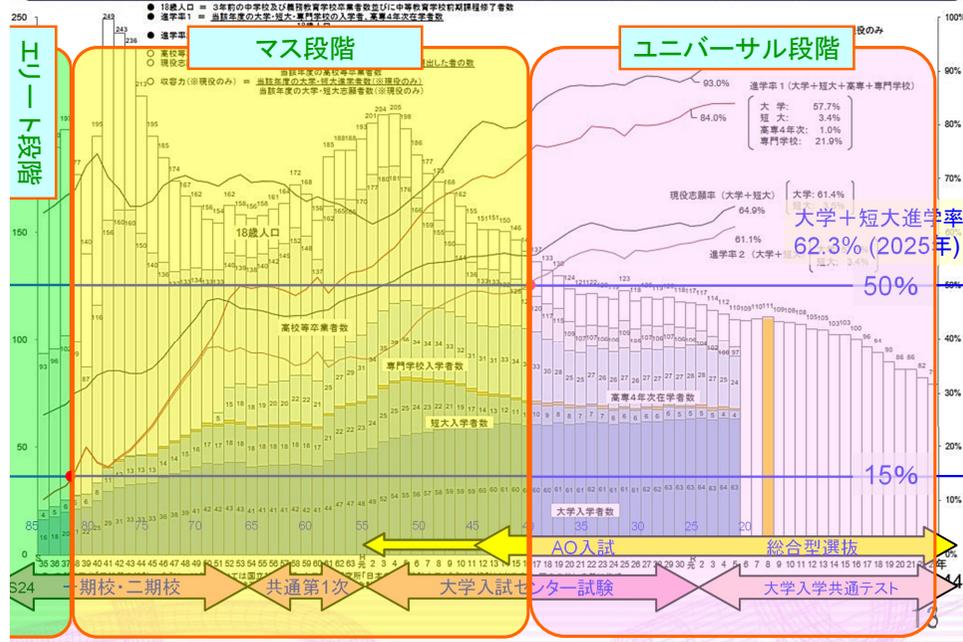
18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

18歳人口は、ピークであった昭和41年には、約249万人であったが、令和5年には110万人にまで減少。令和23年には80万人を切る事が予測されている。高等教育機関への進学率は概ね上昇を続け、令和5年には大学のみで57.7%、全体で84.0%となっている。



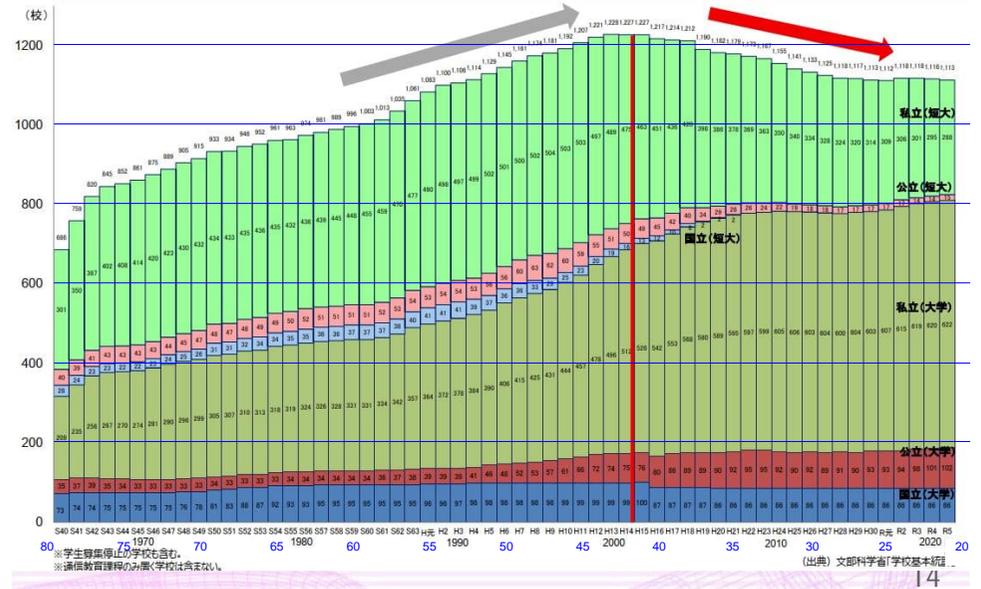
18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

18歳人口は、ピークであった昭和41年には、約249万人であったが、令和5年には110万人にまで減少。令和23年には80万人を切る事が予測されている。高等教育機関への進学率は概ね上昇を続け、令和5年には大学のみで57.7%、全体で84.0%となっている。



大学・短期大学数の推移

- 近年の主な傾向として、四大化や廃止により短期大学数は減少。
- 平成14年以降は全体的に四大・短大の合計数も減少傾向。国立大学数は平成16年以降ほぼ横ばい。



三位一体改革

国としての
対応策

- ◆ 高等学校教育、大学教育、そして、両者を橋渡しする大学入学者選抜制度
- ◆ 入試に関して「**多面的・総合的評価**」の導入
- ◆ この間の流れ
 - ◆ 2014年12月 中教審答申「新しい時代に……」(※)
 - ◆ 2015年 1月 高大接続改革実行プラン
 - ◆ 2015年12月 国立大学協会「最終報告」に向けて
 - ◆ 2016年 3月 高大接続システム改革会議「最終報告」
 - ◆ 2017年 7月 高大接続改革の実施方針等の策定

※新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～

- ◆ **【私見】「生煮え」、現実とのズレ、理想論、……**

A2. 大学入試の外形的定義

[大学入学者選抜実施要項]で規程

	一般選抜	学校推薦型選抜	総合型選抜
受験資格	高校卒業	ほとんど現役のみ	現役とは限らない
推薦	不要	学校長による推薦	受験生の自己出願
定員比	前期/後期	5割まで	制限なし(国大協は推薦と併せて5割未満)
入学義務	制約なし	あり	課す場合は大学の責任で
実施時期	2、3月	11月以降に募集・実施	9月以降に募集・実施
指定校等	なし	大学によって異なる	大学によって異なる
共通テスト	課す	課す/課さない	課す/課さない
選抜方法	学力検査	小論文、面接など	他に、面談、講義等、多様

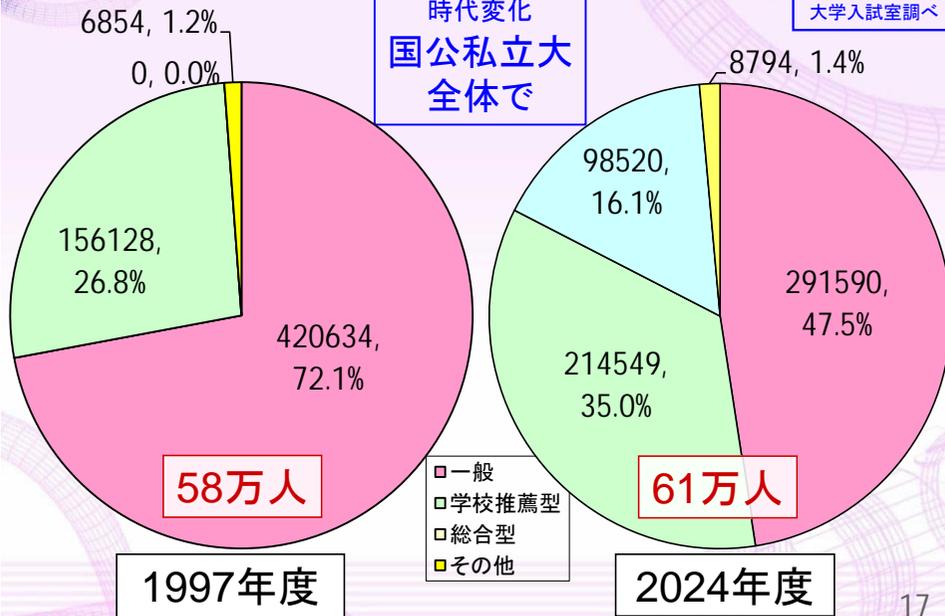
大学入学者選抜実施要項で個別学力検査は2月1日から3月25日まで

特に制限がなく、全ては実施大学の責任で

選抜区分別入学者数の割合

出典: 文部科学省
大学入試室調べ

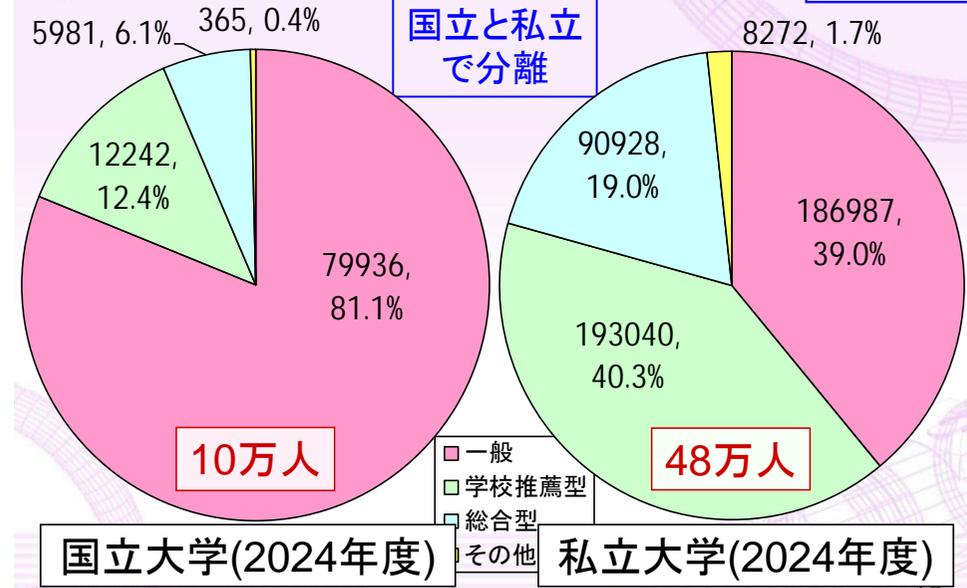
時代変化
国公立大
全体で



選抜区分別入学者数の割合

出典: 文部科学省
大学入試室調べ

2024年度を
国立と私立
で分離



A3. “年内入試”について

◆ 総合型選抜

- ◆ 詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法。(以下略)

◆ 学校推薦型選抜

- ◆ 出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、以下の点に留意して評価・判定する入試方法。(以下略)

[令和8年度大学入学者選抜実施要項]

- ◆ 共通試験の早期化には猛烈に反対だったはず
- ◆ 現状を容認・歓迎されておられるのか?
- ◆ 高等学校教育にプラスに寄与するものなのか?
- ◆ これら選抜方法に適した生徒の割合は?
 - ◆ 「5割 or more」も居るものなのか?

【九州工業大学の例】(設立 1907年)

アドミッション・ポリシー(大学)

1. 理工学分野の学修において基盤となる、数学、理科、情報などの理数系教科・科目で高い基礎学力をもち、それらを用いて自分の考えを表現できる人
 2. 自律的な学びから広い視野をもち、理工系人材として成長する強い意志と、「社会をより良くする何かを残したい、社会の問題を解決したい」という考えをもち続け、自らそのために行動できる人
 3. 国際化に対応できるコミュニケーション力の修得や、様々な文化を理解し受容することに前向きであり、多様な人々と協働することを通して、創意・発見する知の探究を持続する必要性を理解している人
- ◆ さらに、本学での授業内容を理解するために、高等学校等における基礎的な内容を学んでおくとともに、数学と理科の学習内容が特にしっかりと定着していることを望みます。

アドミッション・ポリシー(大学)

1. 高等学校等で学習する教科・科目の基本的な知識を習得し、これを活用して課題解決を行う能力をもつ人、特に英語の基礎学力と表現力をもつ人
2. 工学や科学技術の学習に特に必要となる数学と理科に関する論理的・数理的・科学的思考力をもつ人
3. 知的探究心が旺盛で、自ら新しい課題を見つけ挑戦し、ものやしくみを創造することで、自然との共生の上に人々の幸福に貢献する意欲をもつ人
4. 他者と意見を交わすことのできるコミュニケーション力をもつ人 (創造工学教育課程)

B. 選択することの苦悩

B1. 大学・学部・専門の選択

- ◆ 代表的な学部と、ごく大雑把な説明
 - ◆ 文学部: 言語文化、歴史、思想、行動科学、社会学
 - ◆ 教育学部: 教員養成(主に小中学校)、教育研究
 - ◆ 法学部: 法律、法歴史、政治
 - ◆ 経済学部: 経済活動、資本主義、金融工学
 - ◆ 理学部: 基礎研究、数学、物理学、化学、生物学、地学
 - ◆ 医学部: 医師(4年制もあり)、看護
 - ◆ 歯学部: 歯科医師
 - ◆ 薬学部: 薬剤師(4年制もあり)
 - ◆ 工学部: ものづくり全般
 - ◆ 農学部: 作物、農政経済学、農業工学、海洋、昆虫、獣医師
- ◆ どうやって選択すれば良いのだろう?
 - ◆ 決まらない、決められない。

学位名称≒学部名称

- ◆ 1956年から1990年: 29種類
 - ◆ 文学士・教育学士・神学士・社会学士・教養学士・学芸学士・社会科学士・法学士・政治学士・経済学士・商学士・経営学士
 - ◆ 理学士・医学士・歯学士・薬学士・看護学士・保健衛生学士・鍼灸学士・栄養学士・工学士・芸術工学士・商船学士・農学士・獣医学士・水産学士・家政学士・芸術学士・体育学士
- ◆ 1991年以降: 自由化
 - ◆ 250種類(94年)、580種類(05年)、700種類(12年)
 - ◆ 2014年9月: 文部科学省の依頼に答申するという形で日本学術会議が「(学士の)内容が不明確で国際的にも通用しない」とする報告書を提出することとなった。
 - ◆ 「学位に付記する専攻分野の名称の多様化について」
 - ◆ <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140917.pdf>

B2. 大学・学部選び

- ◆ 大人への階段・旅立ち = 選択の繰り返し
 - ◆ 中学・高校、文理、専攻分野、進学先(大学)、←今ココ
クラブ活動、研究テーマ、指導教員、就職、結婚、.....
- ◆ 【気持ち】判らない・解らない。決められない。不安。
自分らしくって? どれが The Best?
- ◆ 答えは一つではない。どれが「最適」かも判らない。
- ◆ 先輩方も迷ってこられた
 - ◆ 伊吹 文明(政治家、読売新聞 23.05.10)、堀田 力(弁護士、読売新聞 22.05.16)
- ◆ 「考えること」
 - ◆ 自分の独自色 = 自分で考える & 悩むしかない
 - ◆ 自分で工夫する。いろいろな手があると思うゾ

25

『選択という地獄』



- ◆ 藤原 正彦 著、「管見妄語(かんけんもうご) 失われた美風」、新潮社、(2019/5/20) (P.108-109)

<<前略>>

日本やアメリカの学生と進路についてじっくり話し込むと、「将来どうしていいか分からない」とうなだれる者がよくいた。涙ぐむ女子学生もいた。将来の選択肢がほぼ無限にある中で、どれを選ぶかはケータイやコーヒー豆とは違い、人生を決定するような選択であり大変なストレスを伴う。その分野の将来性は分からないし、そもそも自分が何に向いているかは大学生や大学院生になってもなかなか分からない。

読書ゼミの学生達に授業中、「夢は何ですか」と聞くと、多くが「夢などありません」と答えた。青春とは夢を抱く時代と思っていたので驚かされた。無限の選択肢を前に、無限の可能性に胸をふくらませているかと思えば全くそうではなく、むしろジリジリと選択を迫られる辛さに耐えかねているふうだった。

<<後略>>

- ◆ (日本に限らず)若者は、これまでも・これからも「悩む時代」。

26

B3. 苦悩を乗り越えるには

- ◆ 目の前には無限の道: 選択肢が多いがための悩み
 - ◆ 文化系: 文学、教育学、法学、経済学、.....
 - ◆ 理科系: 理学、医学、歯学、薬学、工学、農学、.....
- ◆ 「先の見えない時代」は今に始まったことではない
 - ◆ 高校生(や大学生): 大人への転換点
 - 「悩む年代」: 古今東西(私見)
 - ◆ 「あなた一人だけ」が悩んでいるわけではない!!
- ◆ 「明るく」悩もう: 親、兄弟、先生、友達を巻き込んで
 - ◆ そのための「言語運用能力」= 聞く、考える、伝える 道具
 - ◆ 失敗を経験しながら、確立していく。まずは「やってみる」。

27

C. 大学という学校とその使い方

28

C1. 大学で学ぶことの意味

高校と大学で
全然違う!!

- ◆「大学とは?」何?? どんなイメージ??
 - ◆ 専門、自由、夜更かし、留学、趣味、バイト、飲酒、タバコ、一人暮らし、責任、スマホ、選挙、運転免許、サークル、迷子、恋愛、ゲーム、勉強
- ◆『今月から学生になったことを自覚せよ』
(某学長の入学式での式辞)
- ◆ 外形的には ◆ 学び方の形態では
 - ◆ 生徒: 中学生~高校生 ◆ 生徒: 既知の事実を学ぶ人
 - ◆ 学生: 大学生、大学院生 ◆ 学生: 未知の予測を
実証する人
- ◆ 「教えてもらうのが生徒、
自ら研究するのが学生」
このブレークスルーが
体得できるかがキー
- ◆ 答えの定まらない課題を自ら発見して取り組む
 - ◆ 「未知問題への挑戦」: 高校教育を基礎に

29

C2. 「学び」としての高校と大学の違い

==== 成長の過程 =====

- ◆ 初等中等教育(小学校・中学校・高等学校)
 - ◆ 教える内容は普遍的・確立したもの。
 - ◆ 学習指導要領で規程: 全国統一
 - ◆ 「正しい知識を的確に獲得する学校」
- ◆ 高等教育(大学・大学院)
 - ◆ 「未知問題への挑戦」。正解が定まらない。
 - ◆ 教員と学生で協働して課題を解決していく学校
 - ◆ 「考える方法を獲得する学校」
 - ◆ 「視野を広げる場」==> 将来の選択の幅にも繋がる

30

C3. 大学で獲得してほしい事項

- ◆ 「未知問題への挑戦」: 高校教育を基礎に
- ◆ 獲得できる可能性のある事項
 - ◆ 仲間: 多彩な陣容、多方面のことを知っている知人、.....
 - 同級生、先輩・後輩、教員、.....
 - ◆ 「楽しい人」「カッコイイ人」「スゴイ奴」との出逢い
 - 視野を広げることに貢献
 - ◆ 豊富な教材: 図書館、実験施設、空間、.....
 - ◆ 独自の意見を持ち議論することの有用性
 - ◆ 「自由」: 自分で管理。何をやるか。どうやるか。
 - ◆ 考える習慣
- ◆ この点を高校生に理解してもらえるか? 説明が悪い?

31

C4. 大学を“使い倒す”には

- ◆ 新しい知識を得たくはないか? 見聞を広めたくはないか?
- ◆ 「元」を取りたくはないか?
- ◆ 自分で主体的に切り拓く・調べてみる。
- ◆ 何にでも挑戦してみよう。その後で評価してはどうか?
 - ◆ 「考えてからやる」より「やってから考える」に。
- ◆ 「未知の課題」の前では、教員と学生は対等
 - ◆ 誰も知らない・判らない
- ◆ 疑問は周りの人と議論する
 - ◆ 大学にはいろいろな仲間(教員・友達・先輩)がいる。
 - ◆ 自分からも「他人と異なる意見」を積極的に発信する。
- ◆ 大学は“就職予備校”なのか?

32

C5. “挑戦”することで拓ける世界

- ◆「失敗は成功のもと」の真意として
- ◆「挑戦の先には成功か成長しかない」:
by 忽那 健太さん(くつな、プロラグビー選手)
- ◆ 経験・実践したことによる「気付き」
- ◆ 「失敗」を包容・寛容する社会
- ◆ 「今日が一番若い」=「思い立ったが吉日」
- ◆ 「無駄なことは何もない」: 将来に生きてくる
- ◆ R.P.ファインマン著、
「ご冗談でしょう、ファインマンさん(上/下)」
- ◆ ファラデー著、「ロウソクの科学」



D. 高等学校の課題、大学の課題

34

D1. 私が感じる高等学校教育の現場

- ◆ 全進学時代(高等学校進学率 98.6%(2024))
 - ◆ 大学・短期大学進学率は62.3%(2025)
- ◆ 多様化: 生徒、教育内容
 - ◆ 国語: 文学と論理の塩梅
 - ◆ 数学: 統計単元の教育方法、ベクトルの数C移行
 - ◆ 教科情報の取り扱い(2003年から選択必修):
 - 教員配置、教育内容、ICT環境、入試対応、.....
- ◆ 週5日制
- ◆ 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間
<====> 総合型・学校推薦型選抜との兼ね合い

35

D1. 私が感じる高等学校教育の現場 (続き)

- ◆ 教育内容の中学からの持ち上がり
- ◆ アクティブ・ラーニングの導入
- ◆ デジタル教科書、GIGAスクール構想
- ◆ 部活動支援
- ◆ 進路の多様化、知識・進学情報の多様化
 - ◆ 偏っている場合もあり
- ◆ キャリア教育、金融教育、SDGs、選挙権、.....
- ◆ 高校授業料無償化
- ◆ 『高等学校教育は盛り過ぎ、過積載』
 - ◆ 期待が大きいかからか? 押し潰されないようにね!

36

D2. (高等学校)教員の養成

- ◆ 教員の多様性担保は?
 - ◆ グローバルが叫ばれている時代の教員像は?
 - ◆ 教員県外卒や人事交流があっても良いのでは?
- ◆ 優秀な教員の確保方策は?
- ◆ 教員採用の早期化: 学部3年生から応募可
 - ◆ 解決策・緩和策になれば良いが。

37

D3. 大学の悩み

- ◆ 作題者の後継者育成: 薄氷上の運営
 - ◆ 教養部解体(1990年代中頃)
 - ◆ 共通試験の浸透(47年間): 作題能力の集約
 - ◆ 教員評価の弊害: 「教育」、「研究」、「社会貢献」
- ◆ アドミッション教員の養成
 - ◆ 多様な職務、大学ごとに異なっている
 - ◆ 育成課程がない。多くは「二足のわらじ」。
- ◆ 試験実施
 - ◆ 試験監督要領の複雑化・肥大化、全国的な統一措置対応、別室受験の増加、.....
 - ◆ [例] 説明会+リスニング試験予行演習: 4時間

38

外部試験導入時の考慮点

- ◆ 民間の検定試験の活用: 英語の4技能評価
- ◆ 共通第1次学力試験の導入の功罪
 - ◆ 基礎的な学習の達成の程度を測定すること
 - ◆ 難問・奇問の排除
 - ◆ 良問の出題
 - ◆ 共通の尺度≡輪切り現象、序列化
 - ◆ 実施規模の拡大
 - 厳密性が求められ過ぎているくらい
 - マニュアルが厚くなる一方
 - ◆ 作題者の育成: 作題経験のない大学教員、技術伝承、誰が育てる? ==> 深刻な問題
 - 教養部解体も時を同じくして進行してしまった

39

E. 次代を担う若者に思うこと

40

E1. 若者の気質

- ◆ 多様性が浸透していると想像していたが、...
 - ◆ 「同調圧力」、横並び <====> 個性、独自性
 - ◆ 内向き志向。地元志向。世界に挑戦する者の育成?
- ◆ COVID-19が人間形成に与える影響は?
- ◆ 「効率的な学習」を求める傾向
 - ◆ 「考える」ことの大切さ・面白さを伝えられないものか
- ◆ 「言語化の未熟さ」====> 次項

41

E2. 言語運用能力の涵養

- ◆ 小学校国語科指導要領の「目標」「構成」の項
 - ◆ 3領域:「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」
- ◆ 論理的記述力: 〔「大学入学者選抜改革推進委託事業」から派生
文部科学省 5グループの1つ(2016-18)〕
 - ◆ 誤解なく正確に(過不足なく)主張を伝える技量
 - ◆ どうやって育成すれば良いのか?
 - バカロレア(仏)の哲学試験: 論文試験の「型」
 - ◆ 年少期からの練習あるのみ? 添削も有効?
 - ◆ 気付いた時に着手すれば実るのではないか?
 - ◆ 「読むこと(読書)」の重要性
 - ◆ 卒論が担っている部分も? 初めての(?)自身の主張
 - 一方、書くことを強いられない者に対しては?

42

E3. 「教養」の重要性

- ◆ 「教養」
 - ◆ 定義し難いもの。人によって捉え方も異なる。
 - ◆ 単なる「博識」ではない
 - ◆ 育成方法が不明・多様 <====> 「品」「常識」の修得も
 - ◆ 年齢と共に気になるものなのか?
 - ◆ AIで補えるものなのか?
- ◆ [私見] 5教科の習得。若い時期に?
 - ◆ 文理振り分けの早期化の危うさ
- ◆ 高等学校教育の位置付け
 - ◆ 実社会とのつながりを求め過ぎてはいないか?

43

∞. まとめにもならないが

- ◆ 高等学校と大学の関係:
 - お互いに相手を知り知恵を提案し合う。
- ◆ 学校(高等学校、大学):
 - ◆ 「出逢いの交差点」: 勉強・人・モノ・考え方・.....
 - ◆ 若者に「考えるネタ」を降り注ぎ続ける場 ==> 「気付き」
- ◆ 教育課題、「国家百年の計」
 - ◆ 現状を把握し、対案を提示する活動
- ◆ 「自ら考え、行動する、活力ある若者」の輩出
- ◆ 「教育課題」を考える端緒になれば幸い

44